

## 学部・附属と地域のつながりを深める「学びセミナー」の展開

霜川 正幸<sup>\*1</sup>・佐野 之人<sup>\*2</sup>・藤上 真弓<sup>\*3</sup>・田本 正一<sup>\*4</sup>・田中 智輝<sup>\*5</sup>  
河村 泉<sup>\*6</sup>・江藤 弘康<sup>\*7</sup>・中村 裕司<sup>\*8</sup>・河村 寛美<sup>\*9</sup>

Development of "learning seminars" to deepen the relationship  
between faculties, attached school and the community

SHIMOKAWA Masayuki<sup>\*1</sup>, SANO Yukihiro<sup>\*2</sup>, FUJIKAMI Mayumi<sup>\*3</sup>, TAMOTO Syoichi<sup>\*4</sup>,  
TANAKA Tomoki<sup>\*5</sup>, KAWAMURA Izumi<sup>\*6</sup>, ETO Hiroyasu<sup>\*7</sup>, NAKAMURA Yuuji<sup>\*8</sup>, KAWAMURA Hiromi<sup>\*9</sup>

(Received May 31, 2022)

キーワード：学部・附属の連携協働、つながり、地域貢献、学びセミナー

### はじめに

2019年12月に発生し全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活に大きな我慢を余儀なくし、学校教育は勿論のこと産業・経済・文化等に大きな影響を及ぼしている。我が国では、2020年2月25日に政府が「新型コロナウイルス感染症対策基本方針」を示し、大規模イベントの中止、延期、縮小を要請したのに続き、3月2日から春休み迄、全国の学校に臨時休校を要請し、4月の「緊急事態宣言」発出により、学校・家庭・地域で展開される教育活動も様々な制限や困難を余儀なくされた。以後、感染状況に波を繰り返しながら、2年超の現在にあっても以前の様相には戻り切れていない。

しかし、如何なる危機的状況にあっても、学校には、新学習指導要領の具現化、プログラミング教育やGIGAスクール構想の推進、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、働き方改革や学校・地域の連携・協働による学校経営や運営の改善等、山積する教育諸課題に迅速適切に対応することが求められる。

現在、国立の教員養成系大学・学部が設置する附属学校園は254校園<sup>1)</sup>存在し、それぞれが課せられた使命の達成に努めている。山口大学教育学部は、山口地区に4校園(山口小学校・山口中学校・特別支援学校・幼稚園)、光地区に2校(光小学校・光中学校)を有しているが、筆者らはそれら附属学校園が果たすべき使命について、普通教育(質の高い教育・保育の保証)、教員養成(実践的指導力を有する教員人材の輩出)、教育実践研究(先導的実践研究の推進)、地域貢献(多様・高度・実践的なりソースの発揮)の4機能と捉えている。同時にこれら4機能の発揮には、附属学校園と家庭(保護者)、地域(住民や関係機関や団体等)との相互信頼、豊かで多様なつながり(関係性)が必須であるとも考えてきた。

コロナ禍にあって、対面・集合型で実施されていた参観日、学級・部活動懇談会、PTA総会・部会、教育講演会、運動会や文化祭等多くの学校行事やイベントが中止、延期される中、従来築いてきた相互の信頼関係や豊かな関係性が崩れかけている。そのことは教職員、保護者や地域住民の関係、附属学校園や設置する学部に対する評価の問題にとどまらず、幼児児童生徒の健全育成にも影響を与えている。

本研究は「学部・附属共同プロジェクト(学校危機を乗り越える学部・附属の連携・協働)」として、学部・附属学校園と地域(家庭を含む)の相互信頼、豊かで多様なつながりの再構築をめざし、両者を子どもや大人の「学び」でつなぐ実践を試みたものである。

\*1 山口大学教育学部附属教育実践総合センター \*2 山口大学教育学部社会科教育選修  
\*3 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 \*4 山口大学教育学部小学校総合選修  
\*5 山口大学教育学部教育学選修 \*6 山口大学教育学部附属光小学校 \*7 山口大学教育学部附属光中学校  
\*8 山口大学教育学部附属山口小学校 \*9 山口大学教育学部附属山口中学校

## 1. プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は、教育学部・教育学研究科と附属学校園が一体となって保護者や地域住民等を対象とした学習機会（学びセミナー）を提供し、地域の豊かな生涯学習風土の醸成、地域教育力の活性化に寄与するとともに、学部・研究科と附属学校園の地域貢献機能を発揮し、学校園と地域のつながりづくり、信頼関係の向上を図るものである。その際、附属学校園は、高度な知識・技能、創造性溢れる研究開発能力、地域の教育諸課題解決にノウハウと経験を有する専門人材（教育学部・教育学研究科教員）とつながる強みを生かすとともに、附属学校園の紹介や学校情報の発信をとおして、附属学校園の魅力を発出し評価向上につなぐこととした。

初年度は、光地区は光学園（光小学校・光中学校）として、山口地区は山口小学校と山口中学校において先行実施することとし、年度後半を目途にそれぞれ2回の「セミナー」実施を検討することとした。

推進組織は、学部（両地区担当副学部長、学校運営協議会委員、勤務経験を有する教員等）と各附属学校（教頭）により編成し、表1のとおり役割を分担した。

表1 プロジェクトの推進教員と役割

推進教員	所 属	主 な 役 割
霜川正幸	教育実践総合センター	研究全体構想、光地区（光学園）セミナー総括（担当副学部長）
藤上真弓	教職大学院	光地区（光学園）セミナー企画検討、折衝、運営等
河村 泉	附属光小学校	附属光小学校 PTA、学校運営協議会担当、企画運営支援等
江藤弘康	附属光中学校	附属光中学校 PTA、学校運営協議会担当、企画運営支援等
佐野之人	社会科教育選修	研究全体構想、山口地区セミナー総括（担当副学部長）
田本正一	小学校総合選修	山口地区セミナー企画検討、折衝、運営等
田中智輝	教育学選修	山口地区セミナー企画検討、折衝、運営等
中村祐司	附属山口小学校	附属山口小学校 PTA、学校運営協議会担当、企画運営支援等
河村寛美	附属山口中学校	附属山口中学校 PTA、学校運営協議会担当、企画運営支援等

光地区では、管理職や主任級教員による光学園運営委員会に重ねる形で企画検討を行い、PTA 役員会との協議を経て、年間2回（11月、2月）、外国出身教員による個性の伸長、ものの見方考え方に関する講演、心理学の視点から子どもを捉えた家庭教育や子育て支援に資する研修を行うこととした。

山口地区では、推進教員による企画委員会に山口学園学校運営協議会（コミュニティ・スクールが設置する合議制会議）を連動させ、年間2回（10月、3月）、地域の生涯学習ニーズを反映した行事内容とする、児童生徒を学びの中心に据えることとし、第1回は中学校部活動（弦楽合奏部）や音楽科教員の発表と学部教員による講演、第2回は児童生徒、保護者や地域住民を巻き込んだ学術対話を行うこととした。

## 2. コロナ禍における学校危機のとらえ

附属学校園には、普通教育・教員養成・教育実践研究・地域貢献機能の発揮が求められるが、これらは地域との互恵的信頼関係、良好なつながり（関係性）なしには成り立たない。加えて、現在の教育諸課題は多様化、複雑化、高度化し、学校だけで解決できるものではない。学校と地域は、急速に変化し答えのない時代を生きる子どもたちに求められる力（資質能力）、目指す子ども像や教育課程、教育方針や計画を共有し、連携・協働して教育活動を展開する必要がある。「社会に開かれた教育課程」は、普段の豊かなつながり（関係性）の形成と保持を大前提としている。

しかし、新型コロナウイルス感染症は、附属学校園の教育や地域貢献に縛りをかけ、附属学校園と地域のつながりに影響を与えると同時に、それぞれが抱える問題や相互に絡む課題をも浮き彫りにした。「新型コロナウイルス流行による学校教育への影響に関する調査報告書～長崎県学校教職員へのアンケート調査分析～」<sup>2)</sup> は、臨時休業中から休業明けの教職員・子ども・保護者の状況等をふまえ、「コロナ禍で困ったこと」として、表2のとおり15項目を指摘している。

表2 「コロナ禍で困ったこと」

	内 容 項 目
①	3密回避の難しさ、クラスター発生への不安
②	学びの場・成長のチャンスの消失（学校行事の中止、活動と3密回避の両立困難を含む）
③	授業の遅れ、学習の機会均等、高校受験等への影響の懸念
④	子どもの不安、心身の変化・運動不足等への対応（特別な支援を要する児童生徒への対応を含む）
⑤	感染症防止に向けた指導の難しさ、教職員・児童生徒の意識の低下
⑥	コロナ対応に伴う教職員の多忙化、疲弊
⑦	状況に応じた対応判断・意思決定・合意形成の必要性・難しさ・負担（市町間・学校間での対応の相違、教育活動に係る教職員間や学校と家庭間の考え方の相違、見通しのなさへの不安を含む）
⑧	臨時休業要請をめぐる対応の難しさ・負担（学びの保障、保護者不在時の対応、教職員の働き方、学級経営への影響懸念）
⑨	児童生徒・教職員・自身の感染時の対応や人手不足への不安（島特有の不安を含む）
⑩	マスク装着のつらさ、困難さ、熱中症への懸念
⑪	噂・憶測・偏見・過度な批判等の広がり（正しい情報の収集の必要性を含む）
⑫	保護者・地域住民等への対応・支援、連携協働活動の実施の難しさ
⑬	家庭間の経済格差・環境の違いによる教育活動実施への影響・懸念
⑭	コロナ禍での教育活動実施のための条件整備の不足（オンライン環境、感染防止物品、学校予算の不足・裁量権の小ささ）
⑮	行政対応の遅さ・不統一・現場の実態からの乖離

本プロジェクトの構想、企画立案や内容構成にあたり、両地区推進教員を中心に新型コロナウイルス感染症や感染対策、取り扱いや実施措置の中で表出した事象、影響について、表2が示す内容項目を参考に検討を行った。そして、両地区や各学校が有する特性、学校（児童生徒、教職員、学校経営や学校運営協議会等）の状況、学校と地域の関係や相互信頼の実態等をふまえ、光地区では学校・地域の連携・協働の萌芽、附属学校としての強みや特長の再認識、学校と地域の信頼関係の構築を、山口地区では学校を核とした生涯学習風土や学校・教育支援の環境づくりをテーマに取り組むこととし、年間各2回の「学びセミナー」を実施することとした。

### 3. 光地区（光学園）における取組

#### 3-1 光地区における学校危機（課題）のとりえ

光地区においては、表2「コロナ禍で困ったこと」から、④、⑦、⑪、⑫を課題と捉えた。

光小学校・光中学校の通学区域は、山口県東部（岩国市から周南市西部）、道路距離にして約70kmに広がる。児童生徒の通学方法も鉄道、民間バス、スクールバス、自転車、徒歩、自家用車による保護者の送迎等に分かれ、通学に要する時間も様々である。児童生徒が放課後に友だちや教職員と交流する、深く交わる時間や場が不足する条件下にあるが、コロナ禍は児童生徒のつながりや体験・遊び不足に追い打ちをかけ、心身に負の影響を与えている。

通学区域の広さ、居住地での光小学校・光中学校通学者の少なさによる関係性の希薄は、児童生徒に限らず保護者同士のつながりや相互扶助をも困難にしている。不安や孤立感に加え、コロナ禍により学校や在学中の我が子を見る機会の減少、情報収集機会の不足や情報共有の未成熟は、相互理解の停滞、情報収集・選択能力による捉え違いや誤解等を生み、学校と家庭、家庭相互、家庭と地域にあるべき信頼関係や連携・協働の文化が失われかけている。



そこで、光地区では、保護者や地域住民に対する学習機会の提供、家庭教育や子育て支援環境の醸成を目的とするセミナーとすることとした。保護者が教育や子育てに関する知識や技能等を学ぶとともに、不安、悩みを開示し互いを肯定的・支持的に認めあえる、仲間として連帯的に関わりあえる、学校とより豊かな協働関係になれる、附属学校としての強みや特長の再確認できるセミナーを構想した。取組イメージを「図1 光学園における取組の構想図」として示す。

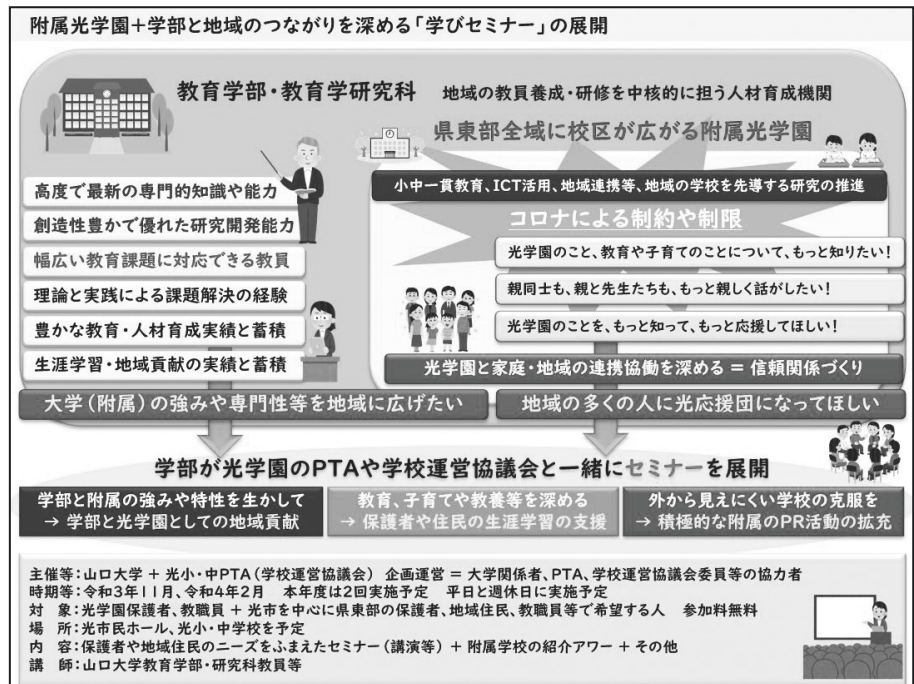


図1 光学園における取組の構想図

### 3-2 光地区における「学びセミナー」の実際

#### (1) 山口大学プレゼンツ!! 附属光学園セミナー (第1回)

- 趣旨 学部・研究科と附属光学園が一体となって保護者や地域住民等を対象としたセミナーを提供し、地域の豊かな生涯学習風土の醸成に寄与するとともに、地域貢献機能を発揮し附属光学園と地域のつながりや信頼関係の向上を図る。
- 主催 山口大学教育学部・教育学研究科・光学園(光小・光中・両校PTA)
- 日程 令和3年11月24日(水) 14:00 ~ 15:30
- 会場 附属光小学校「体育館」
- 参加者 光学園保護者、教職員、地域住民、教育関係者、大学教員等 30人
- 広報等 広報チラシを全家庭に配布するとともに、ホームページ、「Google フォーム」により広報
- 内容等 ①講演「日本人の個性」  
 講師 山口大学経済学部 教授 武本 Timothy  
 ②あなたも私も「ちゃぶ台を囲めば光ファミリー」の参加者交流会  
 ワークグッズ(ツール)を使った「ちゃぶ台」感想交流と仲間づくり  
 ③附属光学園からのお知らせ、紹介等

山口大学プレゼンツ!! 附属光学園セミナー (2021年度 第1回 保護者対象)

今回のテーマは... **「日本人の個性」**

山口大学経済学部 教授 武本 Timothy さん

1965年、英国・ロンドン生まれ。エディンバラ大学在学中、神道に関心をもち、岡山大学に留学。1993年、日本に移住し、2003年から山口大学で文化心理学や観光英語を教えるとともに、日本文化や宗教も教える。50歳で空手を習い始め、学生にも英会話の「型」を身につけ、自然と口に出るようになってもらうのが目標と語る。日本人女性と結婚し2児の父でもある。英国人として感じてきた日本の魅力が世界に伝わってほしいとの思いで、英語での情報発信にも力を入れる。YouTubeでは、「timtaki」として、日本文化や生活、各地の様子等を発信している。

山口大学(教育学部・教育学研究科)と附属光学園(光小・中学校、PTA)が、保護者や地域の皆さまと一緒に楽しく学ぼう!と始めたセミナーです。ぜひ、ご一緒にしましょう! お待ちしております。

いつ? 令和3年11月24日(水) 14:00 ~ 15:30  
 どこで? 附属光小学校「体育館」(光市室積8-4-1 TEL 0833-78-0124)  
 どうすれば? 感染防止のため、参加者を「先着にて50人まで」とさせていただきますので...  
 次の「URL」、「QRコード」から参加申込みをお願いします。  
<https://forms.gle/1EPSo9DYyeCdetpY7>  
 QRコード

ご不明な点は、山口大学教育学部 菊川正幸 までご連絡ください。  
 TEL 083-933-5458 メール m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp

・主催者として、参加者の制限、入退場管理、会場の換気、参加者の健康観察とトレースを行い、感染予防に万全を期しますが、感染状況等により、「オンライン研修への変更」や「行事自体を中止」とする場合があります。ご了承ください。  
 ・リラックスしたカジュアルな会です。「普段着」でお越しください。・駐車場は「光小学校グラウンド」をご利用ください。

図2 広報案内チラシ



図3 セミナーの様子から

## (2) 山口大学プレゼンツ!! 附属光学園セミナー (第2回)

**趣旨** 学部・研究科と附属光学園が一体となって保護者や地域住民等を対象としたセミナーを提供し、地域の豊かな生涯学習風土の醸成に寄与するとともに、地域貢献機能を発揮し附属光学園と地域のつながりや信頼関係の向上を図る。

**主催** 山口大学教育学部・教育学研究科・光学園 (光小・光中・両校PTA)

**日程** 令和4年2月13日(日) 10:00～12:00

**会場** 附属光学園 (小・中学校)「視聴覚室」

**参加者** 光学園保護者、教職員、地域住民、教育関係者、大学教員等

**広報等** 広報チラシを全家庭に配布するとともに、ホームページ、「Google フォーム」により広報

**内容等** ①講演「自分も他者も大切に作る人間関係～子どもの育ちを支えるために～」

講師 山口大学教育学部 准教授 春日由美

②あなたも私も「ちゃぶ台を囲めば光ファミリー」の参加者交流会

ワークグッズ (ツール) を使った「ちゃぶ台」感想交流と仲間づくり

③附属光学園からのお知らせ、紹介等

山口大学教育学部・附属光学園と地域のつながりを深めるセミナー 開催要項  
～ 大学とつながる附属光学園の魅力を活かし、共に学びあえる教育文化を創造しよう ～

- 趣旨**  
学部・研究科と附属光学園が一体となって保護者や地域住民等を対象としたセミナーを提供し、地域の豊かな生涯学習風土の醸成に寄与するとともに、地域貢献機能を発揮し附属光学園と地域のつながりや信頼関係の向上を図る。
- 主催**  
山口大学教育学部附属光学園 (光小学校・光中学校、両校PTA)  
山口大学教育学部・大学院教育学研究科
- 名称**  
山口大学プレゼンツ!! 附属光学園セミナー (第2回)
- 日時**  
令和4年2月13日(日) 10:00～12:00
- 会場**  
附属光学園 (光小・中学校)「視聴覚室」 光市室積 8-4-1 TEL.0833-78-0124 (光小学校)
- 参加者**  
附属光学園保護者、教職員、地域住民、教育関係者、大学教職員等
- 内容**  
(1) いきいき学んで、キラキラ輝き、楽しくつながる「お勉強会 (セミナー)」  
演題 「自分も他者も大切に作る人間関係～子どもの育ちを支えるために～ (仮題)」  
講師 山口大学教育学部 准教授 春日由美 さん  
講師紹介 博士 (心理学)、臨床心理士、公認心理士  
専門・研究領域 臨床心理学、生涯発達心理学  
経歴 九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻博士後期課程修了  
山口県公認心理士協会理事、山口県社会福祉審議会委員、宇部市いじめ問題検証委員会委員、山口県いじめ問題調査委員会委員 等  
著書 「心理臨床、現場入門～初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版 等  
(2) その他、報告等
- その他**  
(1) 光学園や地域の新型コロナウイルス感染状況等に応じて、開催形態の変更 (オンライン研修等)、延期や中止の場合がある。  
(2) 感染防止策をふまえ、収容人数や資料配布の関係から「事前申込」をお願いすることとする。なお、参加人数制限は設けないこととし、希望者多数の場合は教室変更で対応する。  
(3) 本セミナー事業は、山口大学教育学部附属教育実践総合センター「学部・附属共同プロジェクト」事業経費により運営される。

図4 開催要項(第2回)

山口大学プレゼンツ!! 附属光学園セミナー  
(2021年度第2回) 参加申込

開催日: 令和4年(2022年)2月13日(日) 10:00～12:00  
お申し込み: 感染状況等により、「オンライン変更」「延期」「中止」の場合があります。  
※ お申し込みを済ませた時点で、ご参加を確約いたします。人数制限はありません。  
会 場: 山口大学教育学部附属光学園 視聴覚室 (予定)  
お問い合わせ: 山口大学教育学部 附属光学園担当 黒川正幸 083-933-5458 m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp

メールアドレス \*

お名前 (例: 附属次郎) \*

お子様の附属光小・中学校の在籍の有無 (有の場合は、小・中、学年、お名前をご記入ください。)

ご来場の手段 \*

自車来場  
 公共交通機関  
 徒歩、自転車  
 その他

その他、連絡事項があればご記入ください。

図5 申込フォーム(第2回)

第2回については、2021年末から2022年にかけての新型コロナウイルス感染症 (オミクロン株) の感染急拡大 (山口県の状況、2021年12月23日までの1週間で前週の3.00倍、12月30日までは5.50倍、1月6日までは14.30倍)、1月9日から山口県が「まん延防止等重点措置」の適用を受けたことから、新年度への延期となった。

### 3-3 「学びセミナー」の評価と考察

セミナーの評価は、「Google フォーム」による事後アンケート、事務局への e-mail による振り返り提出により行った。第2回セミナーは延期されたため、この項では第1回セミナーについてふれる。

アンケート項目として、①セミナー満足度、②仕事や生活への有効度、③教育・子育てへの有効度、④学校・保護者のつながり有効度で問い、意見・感想・改善点を自由記述で問うた。第1回セミナーの講演内容

(日本人の個性)から、①③④についてふれる。

①セミナー満足度

「今回のセミナーは、総合的に判断して、どのくらい満足されましたか。」

大変満足 (18) 満足 (6) その他はなし

③教育・子育てへの有効度

「今回のセミナーは、お子様の教育や子育てに関して、役立つ部分がありましたか。」

大いにある (14) かなりある (9) あまりない (1)

④学校・保護者のつながり有効度

「今回のセミナーは、附属光学園とのつながり、他の保護者の方々との関係や付き合いに関して、役立つ部分がありましたか。」

大いにある (10) かなりある (8) あまりない (6)

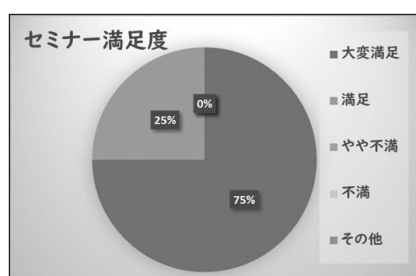


図6 セミナー満足度

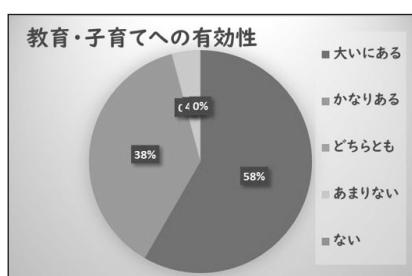


図7 教育・子育ての有効度

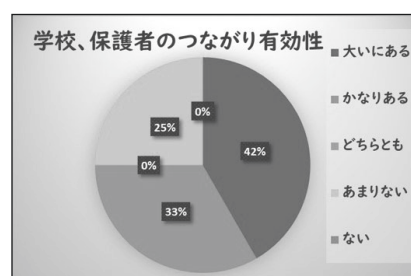


図8 つながり有効度

意見・感想・改善点に関する自由記述から

「大学との繋がりが感じられていいと思いました。恵まれた環境で子どもも学んでいるのだと感じました。大学の専門的なことを親が学ぶことができる機会は少ないので、色々なテーマでやってもらえると子育てや仕事にも役立つと思います。」

「このセミナーの魅力は、①山口大学を身近に感じられる、②子どもが附属光学園で学べる良さを再確認できる、③学校に入れる、④先生方といろいろな話ができるだと思います。様々なきっかけになると感じました。」

「大学には多岐に渡る分野の専門家がおられ、セミナーの形でお話を伺えるのは素晴らしいことだと思います。学校との距離も縮まるし、みんな待っていたと思います。次もぜひやりましょう。」

「大変良い会だったと思います。ただ、お話を聞くのも大事ですが、他の方々、保護者の方や先生方との交流の時間ももっとほしいと思いました。今回は時間が短かったので、その辺りが勿体ないと思いました。今回、ちゃぶ台のようなグッズを使っていただきましたが、話しやすかったし、豊かな時間でした。次回はこういった時間を多くしてほしいと思いました。」

「参加者交流会の時間が短かったです。もう少し色々な話題で繋がりがたかったのです。」

「やはり、附属に通わせて良かったと思いました。ありがとうございました。」

今回は参加者が少なく、アンケートやメールによる情報(回答)が少ないことから、次回以降分の蓄積と継続評価が必要と考える。しかし、少ない情報からも、保護者や地域住民が、附属学校園を介して、大学が有する高度で多様な専門性、教育を元にして課題解決に資する知見や経験を学ぶことの意義や魅力を感じていること、研修行事をとおして保護者相互、保護者と地域住民や教職員がより緊密につながることを求めていること、我が子を附属学校に通わせる、附属学校で学ばせることに価値を見だし、自らの誇りとできること、附属学校と学部・研究科が「目に見える」貢献を行うことが期待感や信頼感につながるが見られた。学びの内容、招聘する講師、推進教員や学校担当者、管理職の役割、行事の時間配分、講義演習型と参加者交流型のバランス等に工夫改善を重ねながら、以後も継続すべきと評価している。



## 4. 山口地区（山口小学校・山口中学校）における取組

### 4-1 山口地区における学校危機（課題）のとらえ

山口地区においては、表2「コロナ禍で困ったこと」から②、⑧、⑫を課題と捉えた。特にコロナ禍において、子どもたち、保護者や地域住民の学習ニーズ、生涯学習や生涯学習支援に対する期待を附属学校や学部・研究科としての地域貢献につなぐことが必要と考えた。

教育学部は、保育・教育に実践的知識を有する研究者、多様な領域の専門家を擁する学部であり、知的文化的資源としては豊富である。附属学校園も同様に、質の高い教員や全国レベルの成績を収める児童生徒がおり、彼らの姿は地域貢献に大きな強みとなる。結果的に学部・研究科と附属学校園の魅力発信となる。

こうした側面が地域貢献となるのは、保護者や地域住民に保育・教育に関する実践的な知識や学問・芸術に対する学びのニーズがあるからであり、ニーズをふまえた学習機会提供を行うことが求められている。

同時に、「学びセミナー」はもう少し射程の広いビジョンを持つ。それは大学の専門性や附属学校園の強みを生かし学校・家庭・地域に生涯学習の風土を醸成することであり、教育や子育てを深め、教養を深めようとする保護者や地域住民の生涯学習を支援しようというものである。これは「地域で生涯学ぶ」という理念であるが、この理念は現代においてますます露わになってきた「人間」の根本的ニーズに応えるものであり、附属学校園における教育と学部における研究が究極的に目指すべきものとする。

加えて、「地域で生涯学ぶ」という理念は附属学校園の教育と学部の研究が究極的に目指すべきものである。山口地区附属学校園は、幼小中一貫教育とコミュニティ・スクールを柱に研究を進めている。幼小中一貫教育は義務教育同様に「人格の完成」を第一の目的とし、そうした教育を12年間一貫した仕方で行うものである。「人格の完成」とは「一人前の人間になること」である。人間は人間を学ぶことによつてのみ人間になるが、「人間」とはどこまでも深く分からないものである。それ故「人格の完成」あるいは「一人前の人間」になるとは、出来上がるのではなく、「生涯人間を学び続ける身が定まる」ことである。幼小中一貫教育は必然的に生涯学習に連続しなければならない。

もう一方の柱であるコミュニティ・スクールは、学校という閉鎖的環境で育てるのではなく「地域で育てる」というのが基本理念であるが、ここに生涯教育の理念を巻き込むことで「地域で生涯学ぶ」という理念が形成され、コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ拡大的発展をする。幼小中一貫教育が必然的に生涯学習に接続しなければならないように、コミュニティ・スクールはスクール・コミュニティに接続しなければならない。

山口地区附属学校園に通う幼児児童生徒の居住地は山口・防府地区と広きにわたり、美術館、博物館をはじめ多くの教育・文化資源のみならず、行政および市民による多様な教育・文化活動が存在する。地域に広がる教育資源を有効活用しつつ、生涯学習を視野に入れながら、幼児児童生徒が様々な世代とともに学ぶことに大きな教育的効果がある。同じことは保護者や地域住民の生涯学習についても言える。

山口地区附属学校園が進める幼小中一貫教育とコミュニティ・スクールの先に生涯学習、地域学習が見えてくるが、こうした教育の究極的理念に向けて研究を行うのが学部・研究科である。附属学校園が学部にとっての研究の場であ



図9 山口地区における取組の構想図

るとすれば、その現場は単に学校園内にとどまらない。

「学びセミナー」はこれらをねらいとし、附属学校園ならではの手法で学校園と地域とのつながりを深め、結果として附属学校園や学部・研究科の存在意義を高めることと考え、構想することとした。

#### 4-2 山口地区における「学びセミナー」の実際

##### (1) 第1回学びセミナー ～地域とともに～

趣 旨 大学（学部・研究科）と附属学校園が共に学びあう学習・発表行事を行うことをとおして、大学や山口地区附属学校園と地域をつなぐ活動を行うとともに、相互理解を深める。

主 催 山口大学教育学部・教育学研究科・やまぐち学園学校運営協議会

日 程 令和3年10月28日（木）17:00～18:30

会 場 山口市民会館「大ホール」

参加者 附属山口中学校生徒、教職員、保護者、地域住民、大学教員等 300人

広報等 広報チラシは、地域（白石地区）全戸に回覧した。

内容等 大学と学校で連携し「文化の秋」に相応しい文化的な内容とし、大学及び附属学校園の活動を地域にアナウンスするとともに、地域と「学び」の機会共有に努めた。

##### ①附属山口中学校弦楽合奏部演奏

指揮 教育学部附属山口中学校 校長 前原隆志

「愛のあいさつ」「ホールニューワールド」「アメージンググレース」「弦楽セレナード  
ハ長調第1楽章」

##### ②附属山口中学校教員によるピアノ独奏

演奏者 教育学部附属山口中学校 教諭 斎藤友紀子

「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」

##### ③講演 「山口誕生のカギは「凸凹」にあり!？」

講師 山口大学教育学部 准教授 楮原京子



図10 セミナーの様子から

##### (2) 第2回学びセミナー ～学ぶとはどういうことか～

趣 旨 大学（学部・研究科）と附属学校園が、児童とともに「学ぶこと」を考える学習行事を行うことをとおして、大学や山口地区附属学校園と地域をつなぐ活動を行い、相互理解を深める。

主 催 山口大学教育学部・教育学研究科・やまぐち学園学校運営協議会

日 程 令和4年3月10日（木）13:10～14:10

会 場 教育学部附属山口小学校「多目的室」

参加者 附属山口小学校児童、大学生、教職員、大学教員等  
50人

内容等 ①「対話」による授業「学ぶとはどういうことか」

講師 山口大学教育学部 講師 田本正一



図11 「対話」授業の様子から

第2回学びセミナーについては、光地区同様に、新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）の感染拡大を受け、当初予定していた保護者や地域住民への公開は行わず、児童と講師、附属学校



園・大学教員に限定して実施した。

#### 4-3 「学びセミナー」の評価と考察

セミナーの評価は、事後のコメント収集の形で行ったが、広く地域や大学に公開し「大ホール」へも自由入場・退場のスタイルで行ったため、一部の情報収集にとどまった点が改善すべき事項である。

参加者コメント（一部）を示す。

意見・感想・改善点に関する自由記述から

「学びセミナーの開催は素晴らしい取組である。現役の山口大学関係者ばかりではなく、OBの方々も山口大学関係者時代や今現在のスキルを活かして附属学校園の子どもたちはもちろん、地域のみなさんや地域の子どもたちに学びセミナーとして地域貢献する機会をもってほしい。」

「山口大学の附属学校園ならではの内容であったと思う。今後も期待している。」

「今回は仕事のために参加できなかったが、面白そうな企画や内容だと思う。次年度以降も企画や実施をお願いしたい。」

「非常によい企画なので、今後も継続してほしい。PTAとしてお手伝いできることは協力したい。」

「自分の子どもも附属山口中学校管弦楽部の出身で、現在も様々な活動に参加していることを、大変喜んでいる。」

「これからも続けてほしいと思う。」

「学びセミナーにご協力いただき感謝している。学びセミナーと冠せずとも、大学と附属学校園が自然に連携できるように大学としても考えていきたい。感謝している。」

弦楽合奏部の演奏では、生徒、保護者、地域住民や附属学校園・大学関係者に完成度の高い演奏を聴いてもらい有意義であった。また附属中学校教員のピアノ独奏では、附属学校園の強み、魅力をアピールできた。講演も人気テレビ番組「プラタモリ」を彷彿とさせるような親しみやすいもので興味を沸かせた。

しかし、音楽演奏終了後の退場が多かった。我が子の発表を見たい思いやコロナ禍にあって学校情報が伝わりにくい現状から理解できるが、プラスアルファの学びの機会提供のための工夫が必要と考えられた。講演については、子どもと共に学ぶワークショップ、疑問や知的好奇心をくすぐるもの、児童生徒と指導者が双方向の学びあいを行う等のスタイルを検討する必要もあろう。

山口地区でのセミナーは、学校を核とした生涯学習風土の醸成、児童生徒の「学び」の成果共有、ふるさと山口に関する学習機会提供や児童の「学び」の充実深化等を、附属学校園と地域のつながり形成に向けて取り組んできた。総じて附属学校園や保護者、地域関係者等から高い評価を得ることができ、附属学校園が積極的に地域貢献し、具体を見せること、行事や日頃の関わりから「つながり」の拡充や「学びの風土づくり」を意識することの重要性が再確認できた。

## 5. おわりに

「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて一国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」<sup>3)</sup>は、「国立大学附属学校についての課題」を「①在り方や役割の見直し」、「②大学との連携」、「③地域との連携」、「④成果の還元」と指摘している。そして、「国立大学附属学校についての対応策（早急に対応すべきこと）」について、「③地域住民等の参画を含む学校運営の改革」として、「社会とのつながりの強化の観点から、(筆者中略)学校運営に保護者や地域住民、あるいは教育委員会関係者等の参画を得る仕組みの導入を検討すること。また、保護者、地域住民への情報提供をより積極的に進めること。」を求めている。

筆者らは、コロナ禍という学校危機を乗り越えて、附属学校園と地域のつながり（関係性）を構築・再生したいと願ってきた。新型コロナウイルスは、様々な教育活動や地域貢献に制限をかけているが、人と人、人と地域、人と社会のつながりや、支える・支えられる、助ける・助けられる等の「る・られるの関係」や温かいコミュニティ形成を阻害すること、地域の豊かな生涯学習文化・風土を停滞させることが最大の危機、危険と考えている。

学部・研究科と附属学校園の連携・協働に向けられる期待、附属学校園の機能強化に向けた積極果敢なチャレンジが求められる。本プロジェクトでの試行を生かし、次年度以降の取組を拡充していく。

## 付記

本稿は、山口大学教育学部附属教育実践総合センターによる「2021年度学部・附属共同プロジェクト～学校危機や困難を乗り越える学部・附属の連携・協働～（2021.8～2022.3）」における共同研究の成果を整理したものである。

実践記録、資料や振り返りフォーム等に基づき、第1・2章を霜川・佐野が、第3章を霜川・藤上が、第4章を佐野・田本・田中が担当（文責）し、全体の文責は霜川にある。河村(泉)・江藤・中村・河村(寛)は、学部・研究科教員と共にセミナー等の企画運営等を担当した。

## 引用文献

- 1) 全国国立大学附属学校連盟（2021.3）「国立大学附属学校一覧」  
<https://www.zenfuren.org/zenfuren/>（最終閲覧日 2022.5.4）
- 2) 長崎大学（代表：副学長 中村典生 2021.1）「新型コロナウイルス流行による学校教育への影響に関する調査報告書～長崎県学校教職員へのアンケート調査分析～」  
[https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/news/include/file/article/images/2021/01/Survey\\_report\\_1.pdf](https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/news/include/file/article/images/2021/01/Survey_report_1.pdf)  
（最終閲覧日 2022.5.3）
- 3) 文部科学省 国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議（2017.8）「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて－国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書－」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/\\_icsFiles/afeldfile/2017/08/30/1394996\\_001\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/_icsFiles/afeldfile/2017/08/30/1394996_001_1.pdf)（最終閲覧日 2022.5.1）